

フィリピン共産党（PKP-1930）第16回党大会に送るメッセージ 党大会成功と平和のための闘いの前進を

長年にわたり友好関係にあるフィリピン共産党（PKP - 1930）が来る十一月七日に第一六回党大会を開催する。この日は十月社会主義革命一〇六周年、そして同党創立九三周年の記念日とも重なる。以下は、〈活動家集団 思想運動〉が同党の要請にこたえ、第一六回大会に向けて送った連帯のメッセージである。 【編集部】

親愛なる同志のみなさん

第一六回党大会に出席された代議員のみなさん

マルクス・レーニン主義を行動の指針とする日本の活動家グループである〈活動家集団 思想運動〉は、貴党にたいする尊敬と感謝の気持ちを込めて、心からの連帯の挨拶を送ります。また、つい先日には、貴党のエドゥアルド・ランダヤン書記長より、わたしたちが発行する英語版『思想運動』を「最良の情報源」と評価するメッセージを寄せていただき、わたしたちはおおいに励まされました。いま一度、お礼を申し上げます。

ロシアとウクライナ（その背後にいるNATO・アメリカ合衆国・EU）との戦争に参戦しようとするフィリピン政府に反対して、自国帝国主義との闘いを足元から組織し、露骨な利潤獲得に邁進するアメリカ帝国主義の独占資本と対峙する貴党ならびにその闘いを支持し行動をとる大衆諸組織のみなさんに、日本の地からこころより同志的な連帯の挨拶を送ります。

この戦争は、東アジア地域にも戦争によってまたもや労働者人民の血が流されようとする危機を招来しています。アメリカ帝国主義が中国に対する代理戦争に利用することで、フィリピンを次の「ウクライナ」にしてしまう可能性が指摘されています。かつて長期にわたり親米の軍事独裁政治を敷いたマルコス元大統領の息子が篡奪しているフィリピンの現政権は、今年三月に米軍基地使用権の拡大を発表し、アメリカ帝国主義との軍事協力関係の強化を急いでいます。他方で、南シナ海をめぐる、「台湾有事」を見据えたアメリカ帝国主義が中国の「海洋侵略」を喧伝しています。アメリカ帝国主義は今年三月に、いまのウクライナ戦争の元凶のひとりであるヴィクトリア・ヌーランド国務次官その人をフィリピンに派遣しフィリピン政府の高官と会談させるなど、軍事同盟関係の強化とアメリカ軍のフィリピンでの軍事プレゼンス拡大のため暗躍しています。

結党九三周年を迎える貴党は、第二次世界大戦期には日本帝国主義の軍事占領に抗してフクバラハップの闘争を組織し、戦後にはアメリカ帝国主義の軍事占領に抗して反基地闘争を闘い抜きました。その偉大な闘争の成果のひとつとして、フィリピン議会が一九九一年九月十六日に軍事基地協定の終結と米軍基地の返還を決定するという輝かしい勝利を獲得しました。長年、フィリピン人民の独立闘争を弾圧する拠点となってきた米軍基地を撤去できたことは、労働者人民の闘いの大きな勝利として、わたしたち日本の人民にとっても鮮やかに記憶されています。以後、手痛い敗北を喫したアメリカ帝国主義は軍事基地の事実上の復帰を進めていますが、貴党はその謀略を阻止しようと粘り強い闘いを展開しています。

それとは対照的に、日本には、約五万六〇〇〇人の米兵と、日米地位協定により日本の主権が及ばない一〇〇か所以上もの米軍基地が、沖縄に集中しながら全国各地にいまだに散在しています。さらに、日本の政府独占はウクライナ情勢を利用して、米軍基地の固定化と拡大化をはかるとともに、軍事費の倍増と米国製兵器の大量購入をすすめて、「自由で開かれたインド太平洋戦略」という名の現代版の帝国主義的覇権外交を展開し、東シナ海だけでなくフィリピン海域の南シナ海での軍事的プレゼンスを高めようと画策しています。

今年八月には日本の副総理が中国への憎悪を煽り「台湾有事」の際の日本軍の軍事介入を正当化する発言を台湾で行なうなど、露骨な帝国主義的意図を隠そうとはしません。フィリピン同様、台湾そして日本自身もまた第二の「ウクライナ」になる危機に立っています。

日本におけるわたしたちの闘いは困難をきわめています。しかし、わたしたちは、反基地闘争の輝かしい勝利に象徴される貴党の九三年に及ぶ闘いの歴史と精神に学びながら、日本の地で日米の帝国主義と対決し、労働者階級の権力奪取を成し遂げ、資本主義システムを社会主義へと置き換え、労働者人民が主人公の国際連帯の精神にあふれた平和な世界の創出のため、立ち向かおうと決意しています。

フィリピン共産党（PKP - 1930）第一六回大会が所期の目的を達し、貴国の、そして世界の階級闘争の前進に寄与するであろう確信を表明して、連帯の挨拶とします。

二〇二三年十月十日

〈活動家集団 思想運動〉常任運営委員会
（『思想運動』1093号 2023年10月1日号）